

Y04a IAU 太陽系外惑星命名キャンペーンへにおける国内での取り組み

臼田-佐藤 功美子 (国立天文台), 飯塚礼子 (日食情報センター), 山岡均 (九州大学), 半田利弘 (鹿児島大学), 天文教育普及研究会・系外惑星命名支援ワーキンググループ (WG)

2014年7月より、国際天文学連合 (IAU) が「太陽系外惑星命名キャンペーン (NameExoWorlds contest)」を開始した。1) 名前を提案したい団体の登録、2) 登録団体による命名対象となる惑星系選び、3) 登録団体による名前の提案、4) 提案された惑星系名への一般投票、という4段階で実施され、2015年10月末日に一般投票が終了した。団体とは、アマチュア天文クラブや学校の科学部など、専門の研究機関ではないグループを指す。

日本国内では、名前の提案を行う団体の支援を日本語で行うため、また、この国際イベントに多くの方が関心を持ってもらうため、2014年9月に日本天文協議会・IAU 太陽系外惑星系命名支援 WG が設立された。天文教育普及研究会・系外惑星命名支援 WG が主体となって、日本語ウェブサイトをつちあげ、随時、IAU 公式サイトへの翻訳、太陽系外惑星の紹介、団体登録や一般投票方法の説明などを掲載した。また、各メンバーが講演会で紹介したり、天文雑誌や Twitter で情報発信するなど、ウェブ以外での宣伝も行った。

その結果、2015年6月末時点にて、登録した586団体のうち日本の団体が166団体(約3割)と世界で1位となったほか、命名する20の惑星系のうち、日本の研究グループが発見したものが7個(約3割)含まれるなどの成果をあげた。その反面、第4段階の一般投票では日本からの得票数が伸び悩み、トップ10入りを果たせなかったという課題も見えた。

本講演では、このキャンペーンを通じた WG の取り組みを紹介しながら、英語を第一言語としない人々にとって、天文の国際イベントへ参加しやすくなる方法について検討する。